



QuickSightを活用した グループ経営ダッシュボードの組み込み

株式会社ディーバ

開発統括本部

プロダクト事業部

テクノロジー統括部長

鈴木 亮

企業グループ全体の経営管理を行うグループ経営では、集約した情報を迅速に整理し、経営判断に活かすことが不可欠です。

グループ経営を支援するDIVAでは、大規模かつ複雑化した連結会計データから迅速・有用な経営判断を行うための経営情報ダッシュボードをQuickSightで実現し、自社のSaaSに組み込んでいます。

目次

1. 会社概要とソリューションの紹介
2. 課題
3. 選定
4. マルチテナント
5. データソースの配布
6. 組み込み
7. 最後に

DIVA®

会社概要とソリューションのご紹介

DIVA®

- **社名** 株式会社ディーバ
- **本社所在地** 〒108-6113 東京都港区港南二丁目15番2号 品川インターシティB棟 13階
- **各拠点** 港南オフィス／大阪オフィス／名古屋オフィス
カリフォルニアオフィス／ロンドンオフィス
- **事業内容** 連結会計、グループ・ガバナンス領域におけるコンサルティングやソリューション支援
- **関係会社** 株式会社アバント（東証一部上場：証券コード3836）
株式会社インターネットディスクロージャー
株式会社ジール
株式会社フィエルテ
DIVA CORPORATION OF AMERICA
Metapraxis（英国）
- **従業員数** 450名（アバントグループ1,107名） ※2021年6月30日時点
- **決算概要** アバント連結売上高：16,236百万円 ※2021年6月期

1位

業界シェアNo.1※
(ITR、富士キメラ総研)

1,100社超

導入実績社数
(累計)

33,000社超

ディーバのお客様が
管理するグループ子会社数

102社

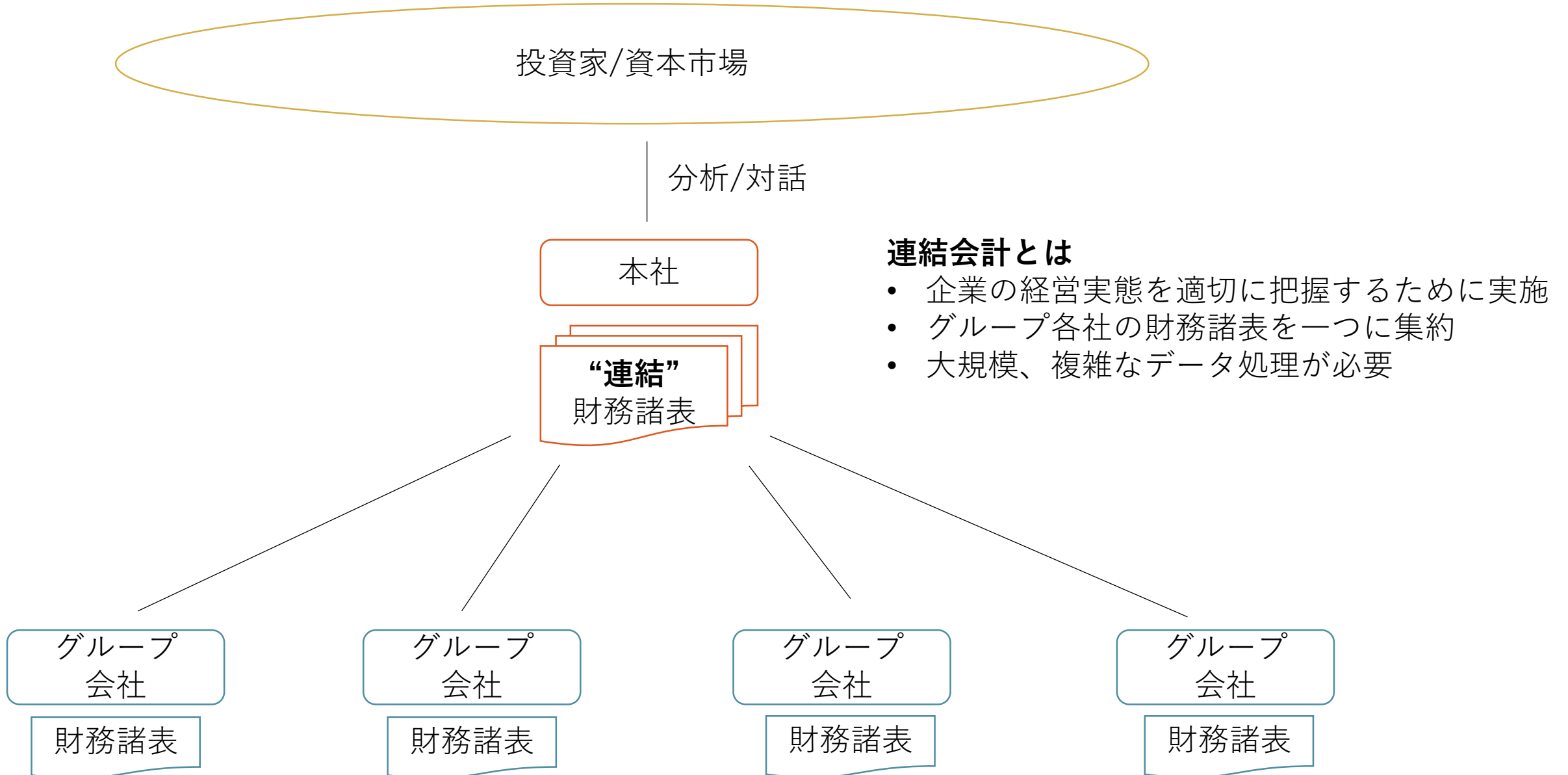
東証時価総額
TOP200におけるシェア

295兆円

ディーバのお客様の
時価総額合計
(※JPX全体の48%)

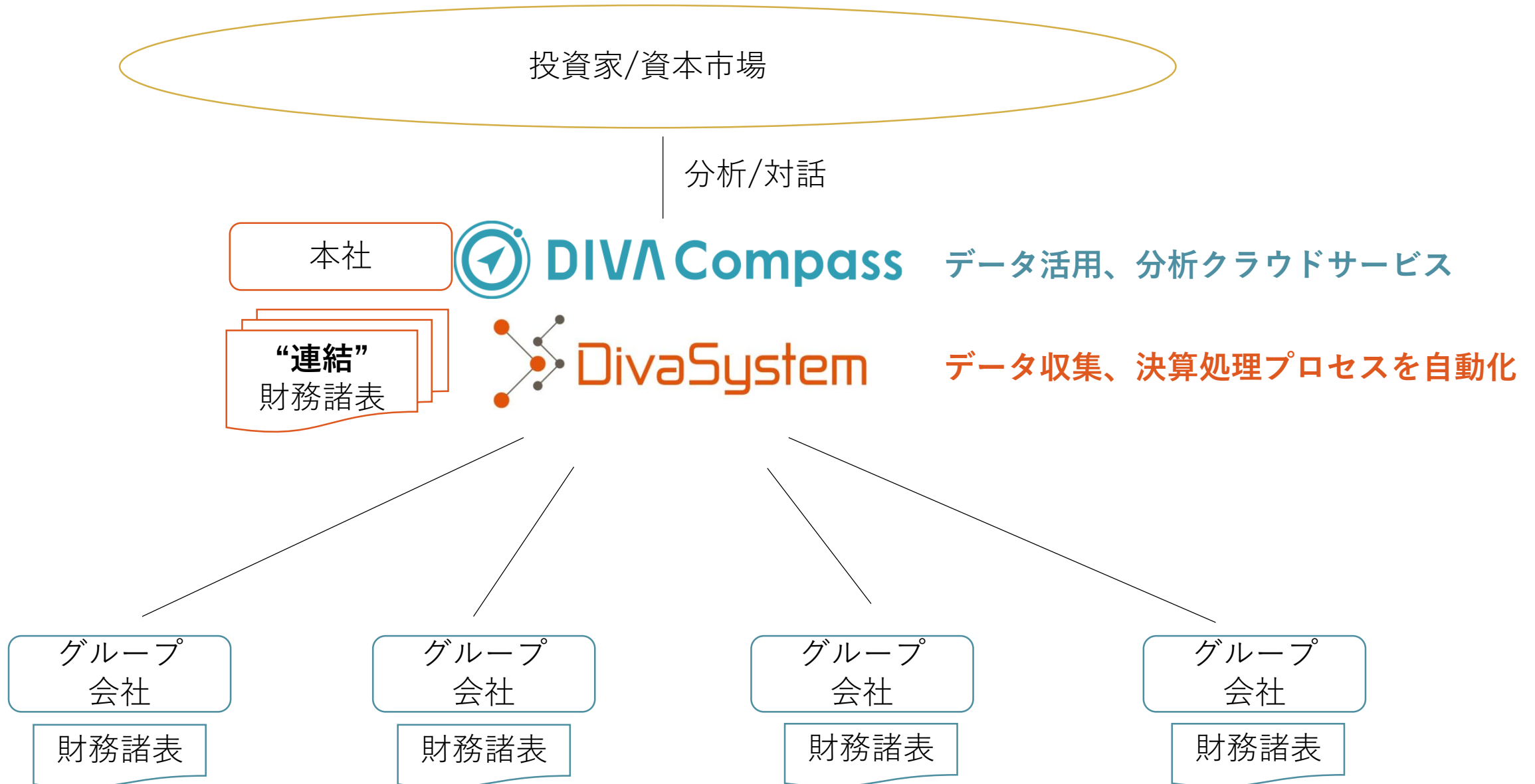
※富士キメラ総研「ソフトウェアビジネス新市場 2012～2021年版」連結会計ソフト（パッケージ）2011～2020年度実績
※ITR「IT Market View：予算・経費・プロジェクト管理市場2021」連結会計市場：ベンダー別売上金額シェア（2015～2020年度予測）

連結会計ってなに？



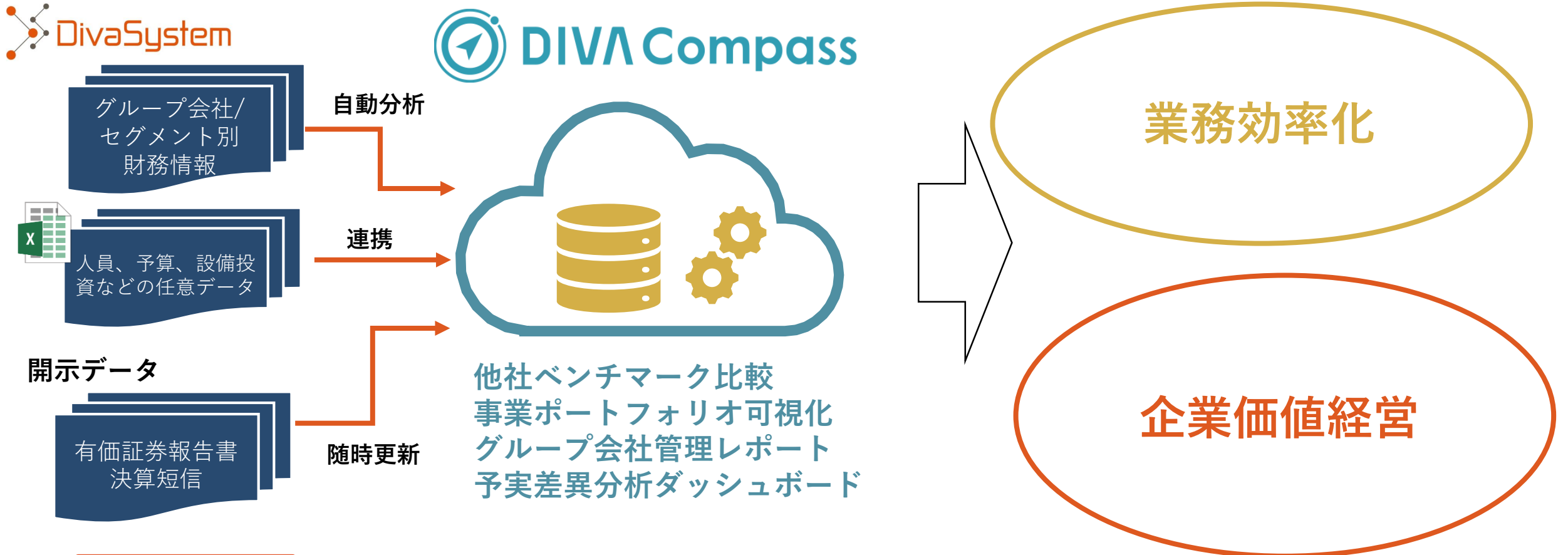
連結会計とは

- 企業の経営実態を適切に把握するために実施
- グループ各社の財務諸表を一つに集約
- 大規模、複雑なデータ処理が必要

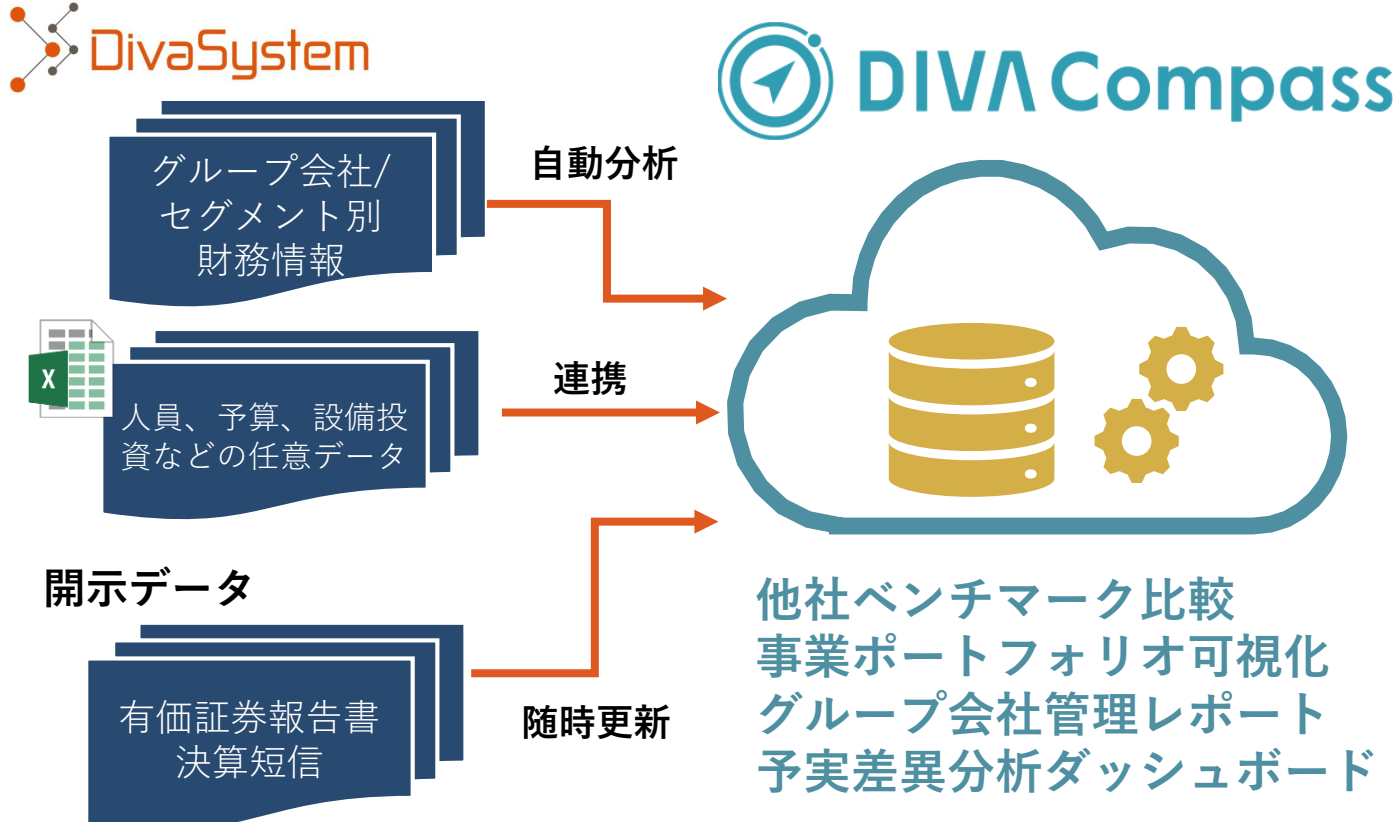
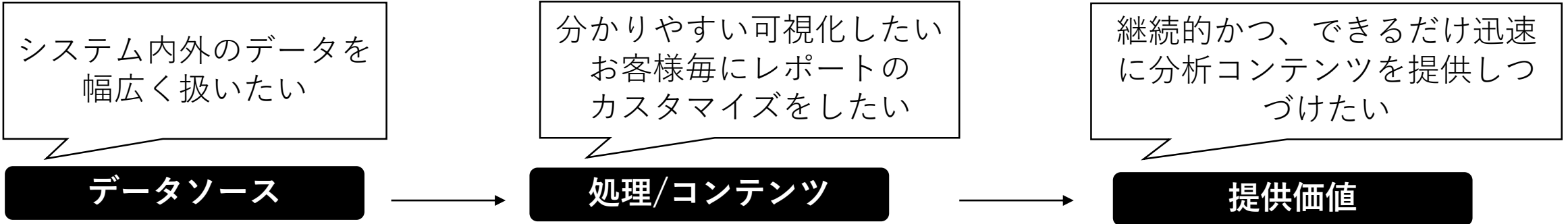


DIVA Compassとは

- データを活用した業務効率化と、企業価値経営を支援するクラウドサービス
- DivaSystemのデータの自動分析に加えて、開示情報とも連携し、ベンチマーク比較や経営の可視化が可能
- データの可視化だけではなく、経営ダッシュボードを活用するための、データ整備からご支援



DIVA Compassのビジネスのポイント



課題

DIVA®

現状は全てのビューを自前で開発しており、
簡易なビューでも実装に数人月かかっている



製品として提供するビューは必要だが、ユーザーの細かい要望
に応えるためにはもっと開発速度を上げることが必要



ユーザー個別要望に対応するためにもBIツールの組み込みを検討

— 選定

DIVA® —

【組み込みBIの選定基準】

- 弊社の利用しているAWSとの親和性が高い**クラウドサービス**であること
- **マルチテナント**が実現可能であること
- 弊社製品から出力した分析用データソースを配布することができること
- ドキュメント、サポート、**ニーズを捉えたアップデート**があること

【組み込みBIの選定基準】

オンプレミスのBIツールを使う事も考えたが、弊社製品もクラウド上に配備する以上 **BIも同様にクラウドサービスとして提供することがより製品価値を向上**すると想定、クラウドサービスとして提供されているBIツールを検討。

COMPASSはAzure上に構築しているが、連結会計製品はAWS上に構築されているという弊社製品構成がある。

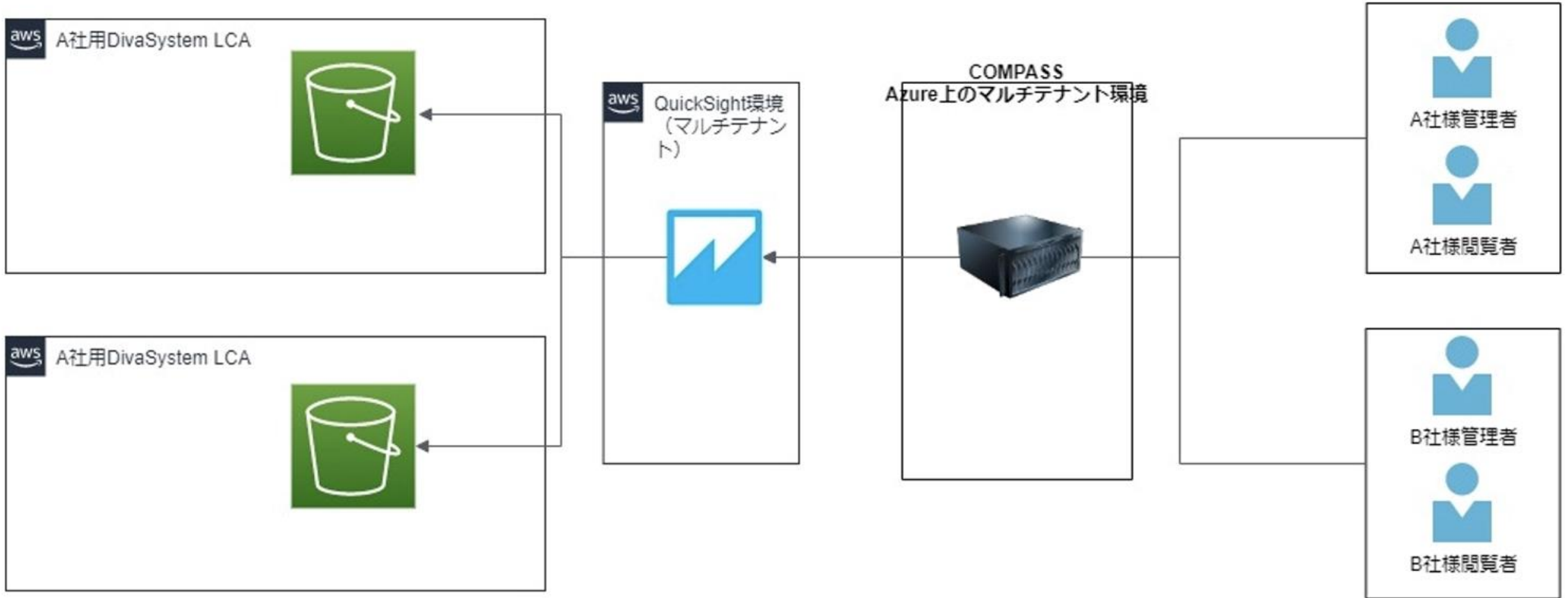
今後のクラウド上での製品展開として、AWS上の連結会計製品からのデータ出力の増加および、新規製品は主にAWS上で展開することになりそうなこと、既にAWSを利用して提供している弊社製品でも利用できるBI基盤であるほうが望ましかったため、AzureではなくAWSのマネージドサービスを利用することに決定。

さらに、AWSメンテナンス性、準拠法の対応状況などを考慮し、AWSの採用を最終決定した。

構成

DIVA®

弊社製品とQuickSightの構成



マルチテナント

DIVA®

顧客の増加に伴い管理対象のQuickSightが増えると管理コストが上がる。



管理コストの増加はなるべく抑えたい



1つのQuickSightを複数の顧客が共有するマルチテナントであるとN/Wの設定等、共通化できるエリアが増えるため管理コストの増加率を抑えられる

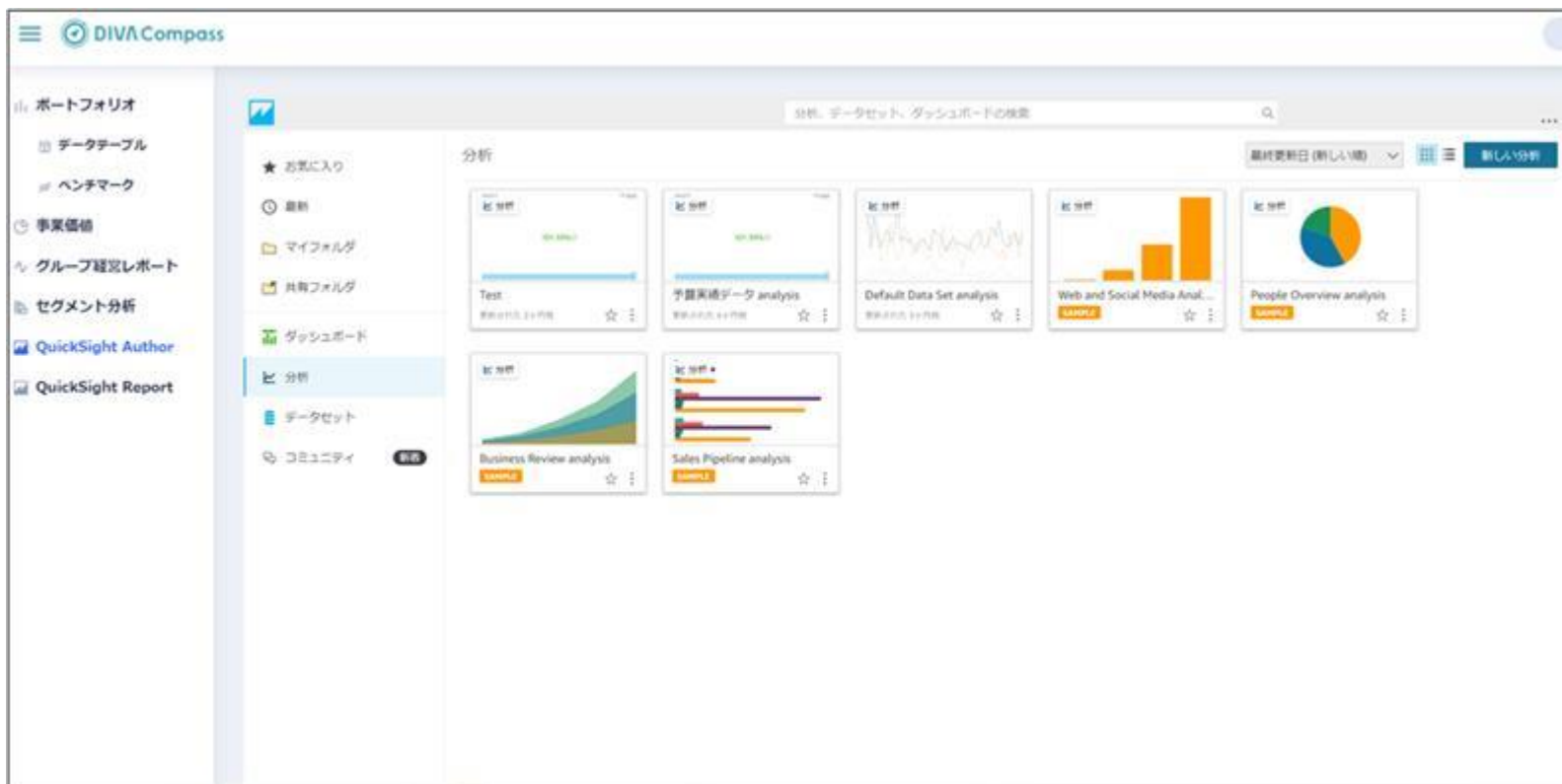
【マルチテナントの実現方法】

- QuickSightは「名前空間（namespace）」という形でマルチテナントを実現可能
 - ユーザー、グループも名前空間ごとに設定することが可能

※Namespace毎にリソースの権限設定も可能なので、セキュアに管理することが可能

【マルチテナントの実現方法】

- 下記画面のメニューにあるQuickSight Author(仮称)とQuickSight Report (仮称)を押下した際に表示されるダッシュボード及び分析はnamespace毎に分割されている。



データソースの配布

DIVA®

【分析用データソースの配布】

DivaSystem LCAが保持しているデータを分析のために活用したい。



DivaSystem LCAのデータは多量かつ複雑なので、**顧客がデータ構造を確認してDashboardを作るのは難しい**



顧客が分析しやすい形に整形したデータソースを配布することによって、**簡便にDashboardを作成可能**

【分析用データソースの配布】

- DivaSystem LCAの処理結果を各社毎に用意したQuickSight（の名前空間）に配布した。
- 配布することにより「常に最新の処理結果をQuickSightで分析」することができた。

— 組み込み

DIVA® —

【ダッシュボードの組み込み】

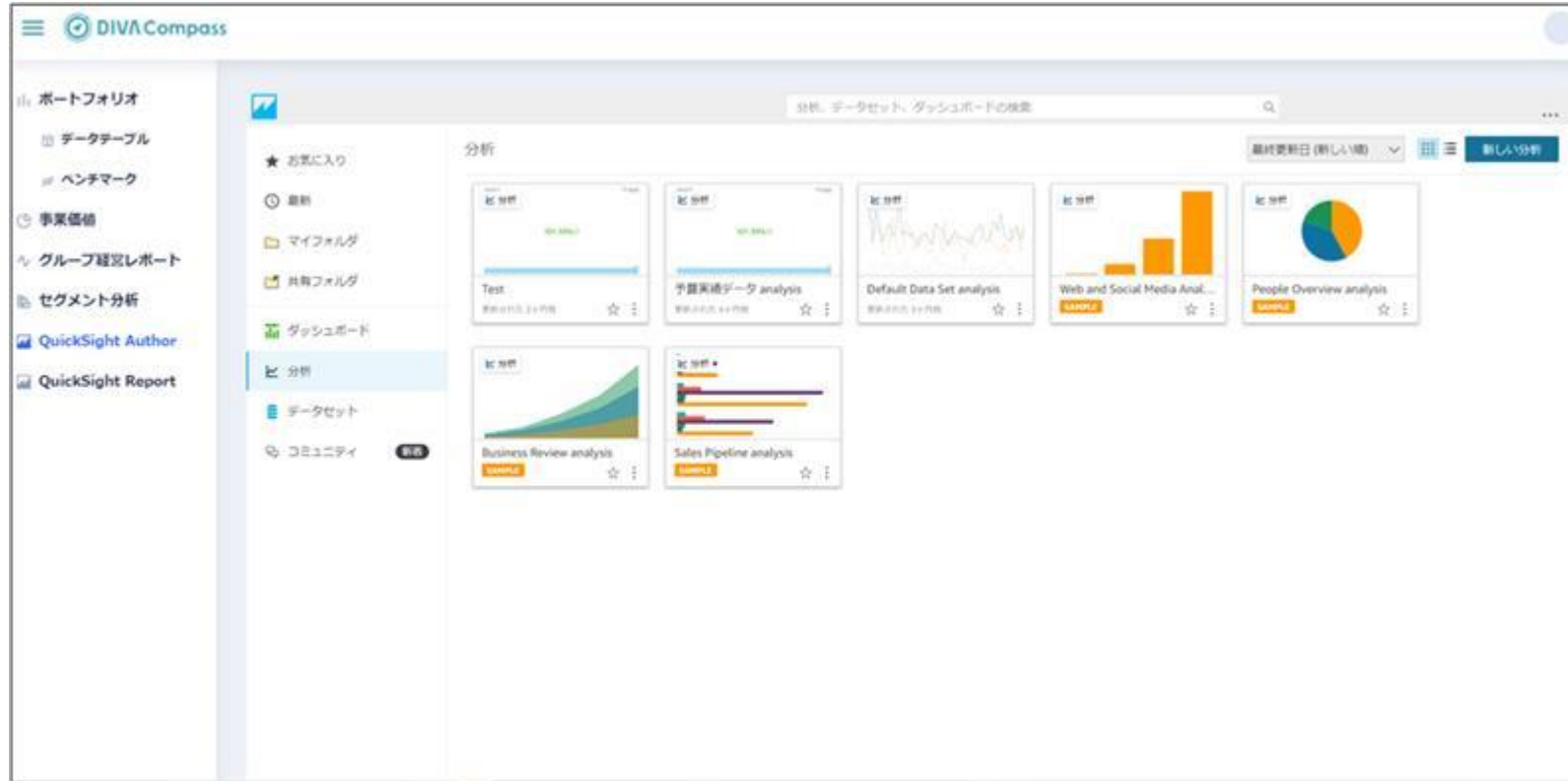
- 組み込み作業自体は比較的スムーズにいった。
 - いくつか機能的な制約で方針転換が必要なところもあったが、大きな問題は発生しなかった。
- PoCは1人月程度
 - むしろ製品に組み込んでリリースする際に必要な追加開発や、運用チームに何を依頼するのかといった作業の方が大変だった。

利用するだけならかなり簡単にできる。

各製品に組み込む際の製品ごとのお約束（例えば認証認可等）に合わせる個所で頭を使った。

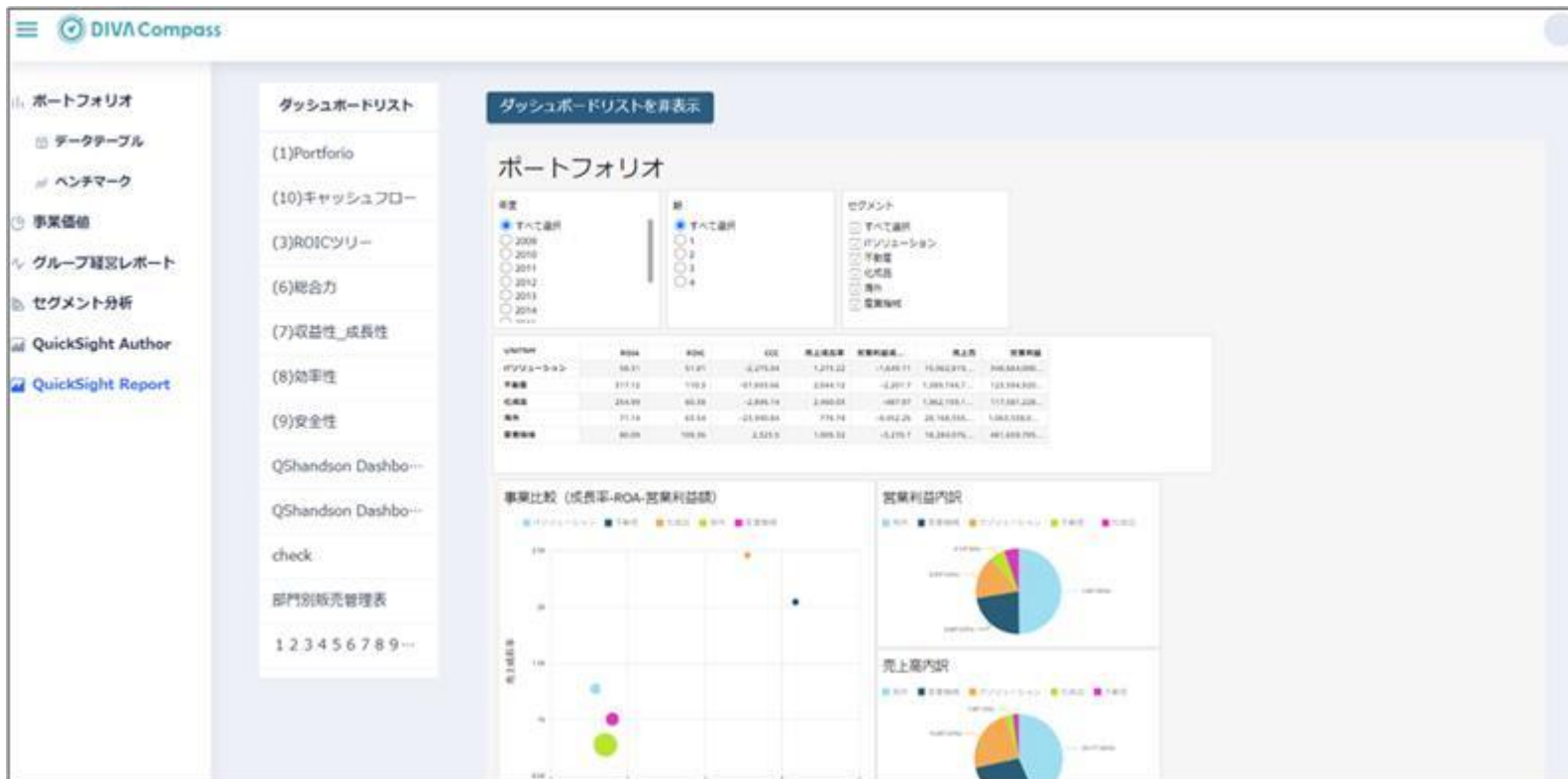
【ダッシュボードの組み込み】

- 弊社連結会計製品から出力したデータをQuickSightに投入し分析を管理者が作成



【ダッシュボードの組み込み】

- 弊社連結会計製品から出力したデータをもとに管理者が作成した分析を拠点メンバーへ公開



最後に

DIVA®

【QuickSight組み込みにより更なるビジネスの加速を】

- QuickSightを組み込むことによって、ユーザーが欲しいと考えている分析をすぐに行えるようになります。
- 連結会計のデータをより詳細に分析することができるようになることによって、ユーザーの経営判断を協力的にサポートしていきます。
- 簡易な分析はQuickSightの機能に任せ、弊社は連結会計特有のデータを如何に経営判断に役立つように提供するかという点に集中して開発していきます。

弊社は連結会計エリアにフォーカスしたソフトウェア会社

マネージドサービスでできることはそちらに任せ、弊社の強みとなるエリアの開発に注力することが、限られたリソースで効率的にビジネスを進めるための有効な手段



QuickSightはSaaSに組み込むBIツールとして必要なマルチテナント、各種APIを一通り備えている

組み込みに関する機能追加にも期待がもてるので、組み込みのBIツールとしてとても有用ではないかと考えている

【Divaはエンジニアを募集しています！】

- 株式会社Divaでは、共に開発をする仲間を募集中です！
- 以前はオンプレミス製品の開発が主でしたが、今はクラウドサービスに力を入れ始めています。
- 今回のQuickSight組み込みのように、マネージドサービスを利用した開発もこれから進めていきたいと考えています。

エンタープライズ製品をクラウドサービスとして提供する ことにご興味のある方、ご応募お待ちしております。

Spreading Accountability

